

福崎君の ワカバの蔭から

福崎 かずたろう

第4回 渋滞について考える II

前回は渋滞の理論・予想について、本当にもう、ぐだぐだと書き綴ったわけだが。んで結論を書くのを忘れていたので、ここに書いておく。

『渋滞はやだ。でもしゃあない。せめて楽しも。』

3 渋滞の緩和

さて、につつき渋滞めを何とか緩らめることは出来ないものかと、小市民が考える。考えるに、小市民らしく出来そうなことはいくつかある。これがひとつめ。しかし全国にたった62万の読者すら、小市民の身勝手な提案を聞いてくれるとも限らないし、やはり個々のドライバーの心がけだけでは、何とも心細い、草の根運動などと呼ばれてしまう代物になる可能性が高い。ここはやはりギョウセイに頼ること大となるわけだが、どうもギョウセイさんの考え方は、お役所的でいかんね、ということも、またもぐだぐだと述べてみたい。これがふたつめね。ということで今回は、ドライバーとギョウセイ側の2観点から、渋滞を緩和していく方向に話を進めよう。

絶対的飽和状態の道路、増え続ける自動車、後手にまわる行政。ドライバー側としてこれをどう緩和するか？ 「おめえらみんな、車に乗るな！」というのが一番簡単でいいですね。けどそれじゃ、このお話の存在意義がなくなってしまうのでパス。あくまで前向きに考えねば、ね。 そのためにはまず、なんといってもドライバー自身が賢くならねばなりません。前回の渋滞の予想という部分とダブるけど、その日その日の状況に即応して、ルートを自在に変えられるようになること。僕らは放牧場へ通う牛じゃないんだから。まあ、そのためには情報の収集に努めるべし。地図をながめ、多くのルートの中から使いそうなものをピックアップしたり。リアルタイムの道路状況をキャッチするために

はカセットばかり聴いと思ったらあかんよ、ラジオ聞きやラジオ。

次に惰性で車に乗ったらあかんということ。電車やバスの方が、安い・早い・旨い（いやうま味がある）なんて場合など、車の長所が活かされないドライブは慎むべきであ〜る。といつつ私も、やっぱり乗ってしまった、てことも多いけど。

事故による渋滞は突発的で困る。事故は起こしたくて起こす人はいないと思うけど、けどどうも、事故を起こしそうなのが分からずに運転しているんじゃないか、と思えるような運転をする奴がおる。車と車の間を縫って走るような奴。本人は自分のテクニック（と思っている）に酔いしれているらしいが、それも周りの車の安定したドライビングがあつてのこと。周囲も好き勝手走っていれば、そういった車も思うようには走れず、あつて言う間に事故っちゃうでしょうな。まあ、そういった運転をしてなくとも事故は起こるが。眠気やだるさなど体調不全や心配事（なんか教習所のマニュアルみたいになってきたなあ）なども、事故の直接的間接的要因となる。特に眠気は、いかんね。私も寝ずのバイトをやった後に天王寺から運転したことがあつたが、淀川大橋のあたりで車がふういとスライドしておどろいて目を覚ますと、斜め前を走っていた車に大方追突しそうになっていた。前にも言ったように事故による渋滞は、ドライバーの予想の範疇から外れたものであるので、他人にかかる迷惑は絶大である。渋滞に巻き込まれたくないのなら、せめて巻き込むことだけはないようにしたい、と常々思う私であつた。

最後に不法駐車について考えてみる。私も週に一度、どこかのマイナー誌の編集会議に参加するため、千里中央駅周辺に車を止める。そのときは、よく道路端に止めるのであまり大きな声では言えないのだが。「道路に車を停めんじゃねえ！」と小さな声で言っておこう。不法駐車こそ、ドライバーのエゴ以外の何物でもない。確かに商店前など、一時的な停車は認められているし、認められておかしくはないのだが、それを見て一般ドライバーまでが「あ、俺も停めていいのかなあ」などと錯覚し、駐車をしだすと、もう、後からやって来たものにとっては、そこは、駐車してもええんじゃないゾーンになってしまうのだ。車にとっては道幅が狭まり、スムーズな走行が出来なくなり、死角が増え、注意力が必要となり神経を使う。しかし、最も迷惑をするのは、バイクであり自転車であり歩行者である。「ったく、こんなところに車、止めやがって・・・」と、苦々しく思われていることだろう。車の社会的評価が10%位は下がってんのとちゃうかな。だからドライバーとし

ては、お互いの首を絞めあっているような愚かな真似はせず、自覚を持って運転なり駐車なりをして欲しいということだ（うおっほん！）。一度でっかいショベルカーかなんかで、びっちり停まった車どもを排除してやりたい、といった過激な発言を聞いたことがあるぞ（私やったかな）。

次にギョウセイサイドからの渋滞の緩和について。10年前にはこんなに車が増えるはずではなかった、と言っても、それは言い訳なわけね。だからといって、行政の不備だフビだ、ブヒブヒと文句を言っても始まらない。これからの自動車行政に期待するわけだ。まずは道路自体。これは都心部分ではどうしようもない、現在の道路の両サイドにビッシリとビルが林立している現状をどう変えられるだろうか。むしろ、都心から離れたところに新たなスペースを確保し街を移す。そこに、じゅうぶんな、いや、にじゅうぶんな余裕を持った道路をつくるっていう、まあいわゆる遷都構想。船場が千里に越してきたように。しかしこれはすぐに出来ることでもないしなあ……。あるいは大阪城も天王寺公園も邪魔なものはすべてぶっこわすくらいの、「超」が兆ほどつく再開発を行なうか……。これはちょっと無理だわな。

ということで、小市民らしく金のあんまりかからない方法を考えてみる。車道を広げるのが無理なら、車線を狭める。これはNHKの番組の受け売りだが、3車線の道路の交差点付近を、ひとつひとつの車線幅をちょこっと狭めるだけで4車線にしてしまおうというもの。交差点付近では大変効果があると思われる（自然渋滞の8割ほどは交差点関係ではないだろうか、残りは合流ね）。大阪では関目の高殿交差点がこのかたちになっていたと思う。

信号機についても、まだまだ改良の余地があると思う。都心ではかなり、交通量をモニターして信号制御を行なっていると感じられる。感じられるけども、いまひとつ働きが足りんなあ、とも思う。というのは、信号制御が、余りに大通りにのみ気配りしちゃっているために、大通りに入る小道・大通りから抜ける小道が、ほとんどぞんざい千万に扱われているように感じられるのだ。といっても、これは信号制御が悪いのではなくて、道路自体の過飽和によるしわ寄せと見るべきかも知れないが。

次はちょいとお金はかかるけど、実現不可能ではない話。なんやら昨今は、自動車から目的地を入力すると、検知器でその自動車の場所を判断して、目的地までの最適経路へと導いてくれる「みちびきエンジェル」みたいなシステムを作りつつあるらしいが（これもNHKの受け売りだが）。走っていると、車内のモニターに「次の信号を左に曲がってください」とか指示が出るらしいけ

ど。わざと道を間違えたりしたらどうなるんだろう。「まじめに走ってくださいよお」とか言ったりして。まあ、そんなシステムを作ろうと思ったら、全国ツツウラウラウらべっかんこおまで、検知装置がいるわな。そんなものはいつになるか判んねえ。ということでもっと簡単に出来そうなのがある。現在、道路情報は、数少ない幹線道路と高速道路に設けられたモニターと、道路公団や警察がラジオに、ほとんど「ひとり遊び」的に流している事故情報と、のこりはもう、一般のラジオの箸休的に流される「道路情報」に耳をそばだてるしかないというのが現状である。そこで私が考えるには、

「道路情報専用ラジオ局が出来てもおかしくはないのぢやうか」ということである。道路情報と車にまつわる話と自動車関係のコマーシャルといった構成だけでも、結構ニーズがあると思うけど。日曜日は誰も聞かない？ 行楽情報でも流せばよろしい。どなたか、竹下さんあたりに言ってやってくださいませかね。

最後に、不法駐車を取り締まるのは結構。しかしその取り締まる警察自身が【必要悪】を認めてしまったのはまずい、と思うけど。なんの事かというのと、「パーキングチケット」制度という奴ですよ。広い道路の路肩に駐車スペースを設けて「40分までならお金入れれば停めてもええよ」、という制度である。カチコチのお役所頭が脳軟化、とおちよくって誉めてあげよう。たしかに必要以上に広い道路なら、良いかも知れないが、谷町筋にしたって堺筋にしたってそんなに広いわけじゃない。まして道路（特に左側）は、車のためだけのモノじゃない。これは「車停めるスペースあんだから不法駐車はバシバシいくよ」と言うための、飴、ではなかろうか。そんな小賢しい（コザカシクもないな）やり方よりも、どどおーんとでっかい駐車場をおっ建てたらどうだい、と私は言いたい。不法駐車の中には止める場所がなくて仕方無しに・・・といった御仁もいるだろう。そういった連中のためにも、そこここに大型駐車場が出来ればいいと思うんですよ。利用料金もなるだけ安くしてね。そのためには国や地方公共団体の補助は必須だが。安くて常に止められる駐車場が出来れば、不法駐車も激減、御機嫌なカーライフ！ってわけだ。

「えっ？ 千里中央は大型駐車場があるのに・・・？ ごもっともで。」

次回は「車を買う」をお届けします、お届けしたいなあ。